

令和7年度「慢性の痛み解明研究事業」における事後評価について

令和8年8月

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
データ利活用・ライフコース研究開発事業部
ライフコース研究開発課

事後評価は、各課題の研究開発の実施状況、研究開発成果等を明らかにし、今後の研究開発成果等の展開及び事業等の運営の改善に資することを目的として実施します。

慢性の痛み解明研究事業では、本事業における事後評価の評価項目に沿って、課題評価委員会において、書面・ヒアリングによる事後評価を実施しました。

●対象4課題(令和7年度終了)

【公募課題名】1. 慢性疼痛の客観的・定量的評価法の確立に向けたシーズ探索に関する研究

研究課題「miRNA 網羅的解析により得られた神経障害性疼痛バイオマーカーの有用性に関する研究開発」について、特定の慢性疼痛病態において、サイトカインシグナルの寄与度に対する確度を高めることが出来たことは大いなる成果と評価できる。今後は別病態での関与についても解析が進むことによって、これら分子を標的にした薬剤の臨床応用への道が開けるものと期待される。

NO.	研究開発課題名	研究開発 代表者	所属機関	役職
1	miRNA 網羅的解析により得られた神経障害性疼痛バイオマーカーの有用性に関する研究開発	中村 雅也	慶應義塾大学	教授

【公募課題名】2. 侵害受容性疼痛としての特徴を持つ慢性疼痛における、物理的刺激に対する応答変容の機序解明に向けた研究

研究課題「新規痛み関連分子 Tmem45b に注目した画期的な慢性疼痛治療薬開発に向けた研究」について、本研究では Tmem45b の役割をさらに探求することを目的にしているが、当初計画された研究の重要な部分は成果が出ており、特に分子 X と共同して痛覚過敏を惹起する点を見いだしたことは、きわめて重要な知見である

NO.	研究開発課題名	研究開発 代表者	所属機関	役職
1	新規痛み関連分子 Tmem45b に注目した画期的な慢性疼痛治療薬開発に向けた研究	川股 知之	和歌山県立医科大学	教授

【公募課題名】3. 慢性疼痛に影響する複合的要因の分析に基づく、効果的な治療法や介入法の確立に向けた研究

研究課題「SARM1 阻害による神経原性疼痛抑制効果機序の多様性に基づく新規治療標的の開発」について、創薬につながる研究であり多くの成果を上げた。これまでの研究で SARM1 阻害薬が CIPN を抑制することを動物実験で確かめている。本研究では当初計画された研究はすべて 100%遂行されており、その高い達成度は本研究の大きな強みである。

研究課題「心理的・身体的要因による中枢性脳卒中後疼痛病態増悪メカニズムの解明」について、難治性の中枢性脳卒中後疼痛に対し、心理的ストレスによる疼痛再発・治療抵抗性という臨床的に重要でありながら未解明であった問題に正面から取り組み、再現性の高い病態モデル、責任回路、細胞種特異的分子病態、複数の創薬候補を同定した点で、非常に高い評価に値する。

NO.	研究開発課題名	研究開発 代表者	所属機関	役職
1	SARM1 阻害による神経原性疼痛抑制効果機序の多様性に基づく新規治療標的の開発	荒木 敏之	国立精神・神経医療研究センター	部長
2	心理的・身体的要因による中枢性脳卒中後疼痛病態増悪メカニズムの解明	糸数 隆秀	大阪大学	特任教授 (常勤)

●評価のスケジュール

書面審査実施期間	令和8年6月3日(水)～8年6月17日(水)
面接（ヒアリング審査）審査	令和8年7月6日(月)

●課題評価委員 名簿

NO	課題評価委員	
	氏 名	所属・役職
1	上野 雄文	国立病院機構 肥前精神医療センター 院長
2	○小幡 英章	埼玉医科大学総合医療センター 麻酔科 教授
3	清水 栄司	千葉大学 大学院医学研究院 認知行動生理学 教授
4	田辺 久美子	東海国立大学機構 岐阜大学 大学院 医学系研究科 准教授
5	橋口 さおり	聖マリアンナ医科大学 緩和医療学講座 主任教授
6	細井 昌子	九州大学 九州大学病院 心療内科・集学的痛みセンター 副センター長
7	◎松原 貴子	神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 教授
8	村上 正晃	北海道大学 遺伝子病制御研究所 教授
9	森岡 徳光	広島大学 大学院 医系科学研究科 薬効解析科学 教授

※氏名の前の符号は、◎は当委員会委員長、○は当委員会副委員長であることを表示。

●PS・P0 名簿

役割	氏 名	所属・職名
PS	牛田 享宏	愛知医科大学 医学部 疼痛医学講座 教授
P0	中江 文	大阪大学情報科学研究科 特任教授
P0	天谷 文昌	京都府立医科大学 医学部医学科疼痛・緩和医療 教授

●評価項目

- ①研究開発達成状況
- ②研究開発成果
- ③実施体制
- ④今後の見通し
- ⑤事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目
- ⑥総合評価

以上